

研究・調査報告書

報告書番号	担当
396	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Alcohol abuse, endoplasmic reticulum stress and pancreatitis. 飲酒乱用、内因性網状体ストレス、および膵炎	
執筆者	
Pandol SJ, Gorelick FS, Gerloff A, Lugea A.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Dig Dis. 2010;28(6):776-82.	
キーワード	
膵臓、膵炎、広がった蛋白反応、飲酒、喫煙	
要 旨	
目的: 飲酒乱用は急性、慢性膵炎両方の主要な原因である。膵炎は、一見何の異常もない大量飲酒者から、大部分を占める急性炎症性または壊死性膵炎を呈する者、また少数の線維化、慢性炎症を伴う慢性膵炎に移行する者まで、症状がさまざまである。喫煙とアフリカ系アメリカ人の民族性は共に、アルコール性膵炎のリスク増加と関連がある。	
方法: 本論評では、ネズミにおけるエタノール摂取が膵臓外腺の消化酵素合成小胞細胞の内因性網状体における酸化ストレスの発生原因となることを証明した我々の方法について述べる。	
結果: この内因性網状体ストレスは小胞細胞における Xbox 結合蛋白 1(XBP1)を含む活性化された広がった蛋白反応(UPR)により減弱する。UPR 活性が XBP1 の遺伝的減少により抑制されたとき、エタノール摂取は膵臓において有意に病的反応を引き起こす。これらの結果から、多量飲酒者の大部分が著しい膵炎を引き起こさない理由は、エタノールが引き起こす内因性網状体ストレスを減弱するように適応する UPR を、膵臓が備えているためである。	
結論: 我々は、飲酒乱用により生じる内因性網状体ストレスを軽減するのに UPR が不十分である時、結果的に膵臓に病気が引き起こされるという仮説を立てた。	